

災害発生時の人権課題について考えよう

いつ、どこで起こるか分からない災害。予測が難しい災害ですが、平常時に、災害時に起こるであろう人権課題について考えることが、いざというときの人権の尊重につながります。

災害発生時の人権課題とはどのようなものでしょうか。このことを「救援物資の支援」を通して考えていきましょう。

ワーク 1

(1) あなたは「避難所に物資を送ろう」と考えました。何を送るか、3～5つ書き班で共有してみましょう。

(2) あなたは(1)を考える時にどのような災害を想定しましたか。

ワーク 2

冬に他県で大きな地震が発生し、家屋の倒壊などにより、避難所で生活している人々がいると仮定します。あなたや周辺の人には被害を免れたので、あなたは被災のあった県のウェブサイトに記載されている手順で救援物資を送ることにしました。何を送るか、書いてみましょう。

ワーク3

次のQ&Aは、内閣府防災情報のウェブページ（平成23年度広報誌「ぼうさい」夏号（第63号））に掲載されているものです。これを読みながら、救援物資として何を送ればよいのかを考えるために参考になる部分に下線を引いてみましょう。

Q:被災者に物資を送るにはどうしたらいいですか。

A:被災地の状況について情報を得ながら、そのときどきに求められる、ニーズにあった物資を送りましょう。

東日本大震災では、津波により東北地方の太平洋沿岸一帯に広域な被害がでたことから、今もなお、支援を必要としているたくさんの方がいらっしゃいます。被災者が生活自立に歩みだし、復興に至るまでには相当な時間がかかりますから、いつときの流行りのような支援ではなく、長期的に支援していく意識をもっていただくことが大切です。そして、せっかくの善意が被災者の迷惑にならないためにも、送る側の配慮が必要です。

被災地で迷惑になるのは、使い古しの汚れたものを送ること、必要であった時期を過ぎた物資が余剰状態になること、様々な品目が一つの段ボールに入っていて、被災地で仕分けが必要なものです。

反対に、喜ばれる送り方は、個人で直接被災地に送るのではなく、今被災者が必要としている物資を把握し、具体的な品名で募集をしている団体に送ることです。同一の品をまとめて送ることで、被災地で仕分ける負担をなくし、必要なところにいち早く届けるメリットがあります。物資を送る際には、受け取った人が嬉しいと思える、質の良いものを選びましょう。

「ないよりはまし」という品を送ると、被災者の心を傷つけてしまうことがあります。送る前に、受け取る人が喜ぶか、物資を見直すようにしましょう。

これからも息の長い支援をお願いします。

<https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h23/63/question.html>

防災 Q&A：防災情報のページ - 内閣府

- (1) 上記Q&Aを読んで、救援物資を送る際に考えるとよい事柄について、班で話し合ってみましょう。そして他の人の意見を書いてみましょう。

- (2) 上記のQ&Aを読んで、ワーク2と同じ問いについて考えましょう。何を送るか、書いてみましょう。

ワーク4

災害発生時の人権課題について考えるため、まず、避難所にはどのような立場の人たちがいるか、下の枠の（ ）に書いてみましょう。次に、被災して避難している人たちが必要とするものや環境を枠内になるべく多く書いてみましょう。また、書いたものを班で話し合ってみましょう。

例（高齢者） ・軟らかい食料 ・横になれるスペース	（子ども） ・保護者と一緒にいること ・遊べるスペース	（女性）
（ ）	（ ）	（ ）
（ ）	（ ）	（ ）

ワーク5

災害時にも一人ひとりの人権が守られるためには、どのような考え方が大切でしょうか。本時のワークを通して気づいたことに関連付けて書いてみましょう。

解説 災害発生時の人権課題について考えよう

1 ねらい

「相手の状況などを考えて行動する重要性」に気づくことをねらいとしている。「避難所に救援物資を送る」という具体的な行動を通して、災害発生時における人権課題を自分事としてとらえられるようにし、様々な立場の人がいることを想像する力を養う。

2 進め方

展開例（50分 3～5人の班を作る）

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1（8分） ①送る物資を考え、記入し、班で共有する。 ②「災害」という言葉から、これまでの自身の見聞からイメージがつけられることに気づく。	・多くの情報を伝えることは控え、各自が想起する物資を記入させる。 ・生徒が「災害」の設定を任意に決めてよいことを伝える。 ・どのような「災害」を想定したか具体的に考えるよう促す。
2 ワーク2（5分） 限られた情報である「季節」や「状況」をもとに、「避難所に物資を送る」ことを考える。	・ワーク1より、さらに具体的な思考を促す。 ・ワーク3で救援物資に求められることや、自分の考えが不十分な点などの気づきに繋げるため、ここでも具体的に想像するよう言葉をかける。
3 ワーク3（12分） ①Q&Aを読み、送る救援物資を考えるために参考になる部分に下線を引く。 ②救援物資に求められることを考え、記入し、班で共有する。 ③長期的な支援の視点に気づき、具体的な物資について考え、記入する。	・平成23年3月に東日本大地震が起きたことを補足説明する。 ・救援物資として求められることを考える必要があることに気づかせる。 ・考えることができた生徒には、なぜそのことが重要なのか問いかける。 ・求められる救援物資を具体的に考えるためには、被災者や被災地についての情報や想像力が必要であることに気づかせる。 ・どのような状況なのか、どのようなものが必要なのかを考えさせ、書かせる。 ・他の人の考えと自分の考えとの違いに着目させ、相手の立場に立って考える難しさに気づくよう促す。
4 ワーク4（15分） 様々な人の立場に立って、具体的な状況を想像し、班で共有する。	
5 ワーク5（10分） 相手の状況などを考えて行動するために必要なことは何かを考える。	・状況を想像できていないと支援が行き届かないことから、社会的立場の弱い人などを中心に困難な状況に陥ることに気づかせる。 ・社会的立場が強い人には、過度な配慮を強制されるなどの事例があることも指摘する。 ・災害発生時の人権課題を解決するために相手の状況などを考えて行動することの重要性についてふれる。

ワーク1について

後のワークで「災害」という言葉に自身のバイアスがかかっていることや、状況によって必要となる支援が変わることに気づくための材料としたい。生徒によっては地震と思い込んだり、時期や場所、災害の経過等を考えていなかったりするので、班活動や意見の共有を通してねらいを達成したい。

ワーク2について

このワークは、ワーク3のための準備にあたる。次のワーク3の活動で、具体的に想像したり、相手の立場に立って考えたりすることが不十分であると気づかせたい。

そのために、与えられた情報から避難所の状況を想像し、ワーク1よりも具体的に考える活動を行う。生徒自身が十分に考えたと思うことが重要であるので、どのような人がいるのか、どのような状態なのかといった想像を膨らませる言葉がけを行う。

ワーク3について

ねらいは、災害時の人々の気持ちや思いを想定することの重要性に気づくことである。

また、災害時の状況を想定し、人々の気持ちや思いに寄り添い行動するためには、被災者や被災地の具体的な情報を得ることが大切であることに気づかせたい。

このワーク3では、「Q&A」中の「被災地の状況について情報を得ながら」「そのときどきに求められる、ニーズにあった物資」「いつきの流行りのような支援ではなく、長期的に支援していく意識」「受け取る人が喜ぶか」といった視点を挙げさせたい。生徒の中には「喜ばれる送り方」に着目するものもいるかもしれないが、ここでは具体的な「救援物資」を考えさせ、そのためには被災者や被災地の情報等が必要であるという考えにつなげたい。

その上で、ワーク1・2と併せて、情報や配慮が不足した支援が被災者を助けることにはならないことに気づかせ、平時における想像力の育成の重要性に着目し、ワーク4で実践する流れを想定している。

また、総括時などにおいて、ワーク3で気づく情報や配慮の不足が、SNSによる誹謗中傷や風評被害の原因と通ずることにもふれ、災害発生時の人権課題の全体像に着目させながら、それらの対策について考えさせる。

ワーク4について

目的は、様々な人の立場に立って具体的に考えることで行動が変わること、独りで想像するだけでは至らない点があることへの気づきである。個人作業時に十分考えたと実感させた後に、班での共有を通して他の人との考えの違いに着目させ、自身の考えを広げることが重要になる。

解答例は次のようなものがある。女性の枠には生理用品といったものや避難所設営に参加できる機会が挙げられる。外国人であれば多言語表記や通訳者、アレルギーのある人であれば医療関係者や衛生的な空間、乳幼児であればおむつや粉ミルクといったもの、泣いても良い空間などが挙げられる。障がい者については身体障がいや発達障がいなど、障がい特性に応じた対策が必要な点に着目させ、より具体的に考えるよう指導する。

その他にも、ペットを連れていくなどの理由で、避難所ではなく付近の車内やテントでの生活を希望する人なども想定できる。

また、避難所の運営や救助を行う公務員や比較的被害が軽度で健康な男性などに対しては、支援が後回しになる事例や過度な配慮を強制される傾向がある。例えば、休憩スペースが少ない、厳しい目を向けられるなどである。社会的立場が弱いと一般的に考えられる人だけが人権侵害を受けるという結論にならないよう注意したい。

ワーク5について

このワークを通して、情報や配慮の不足が起こす災害時における問題への気づきも促したい。多様な視点で状況を把握した上で、行動することの重要性とその前提として知識や情報が必要不可欠であることを認識させたい。生徒の回答として高齢者や女性といった具体的な立場が出てくるだろうが、男性の課題などにもふれながら「周囲が状況を想像しづらい立場の人」という広いとらえ方をすることで目的を達成したい。

最後に、生徒の意見を集約しながら、日頃の生活から、思い込みによる思考の不十分さを自覚しつつ、多様な視点をもって行動できているかを自身に問いかけるなど、普段の取組や生活を振り返るよう指導したい。併せて、災害時にも一人ひとりの人権が尊重される社会づくりが重要である点も押さえ、まとめとする。

<引用文献等>

- ・内閣府防災情報のページ 平成23年度 広報誌「ぼうさい」夏号（第63号）
<https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h23.html>

<参考資料>

- ・「被災弱者」岡田広行 岩波新書 平成27年2月
- ・「人に寄り添う防災」片田敏孝 集英社新書 令和2年9月